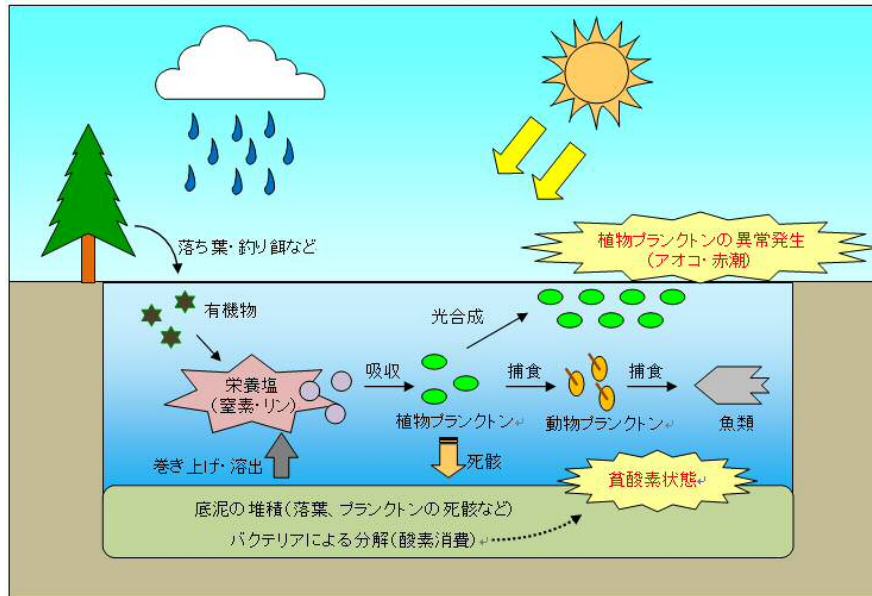


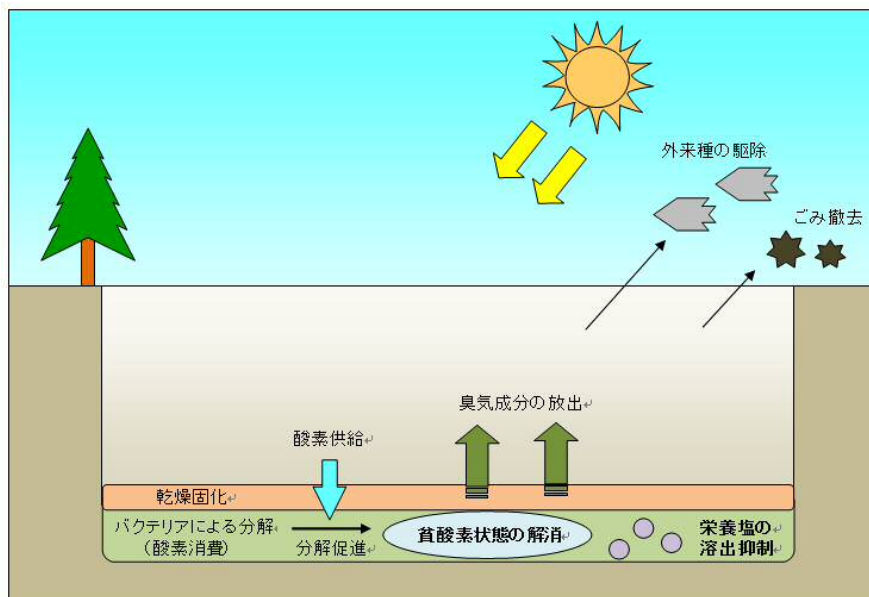
「かいぼり」について

かいぼりとは、農業用の溜池について、3～5年に一度、稲作が終わる晩秋から早春にかけて水を抜くという、昔ながらの手法です。池底の泥を天日干しして酸化状態にすることにより、富栄養化の抑制に寄与してきたと言われていました。

近年では、湖沼の水質改善手法として見直されており、ブラックバスやブルーギルなど特定外来種の駆除も同時に行われ、生態系の保全としても有効な手法とされています。



富栄養化のメカニズム



かいぼりの効果